

平成 23 年度研究成果情報

課題名：ノリ色落ち軽減化のためのサルボウ垂下養殖技術の開発

[背景・ねらい]

佐賀県のノリ養殖場では、冬季に発生する珪藻赤潮によるノリの色落ち被害が毎年のように発生しており、深刻な問題となっている。そこで、ノリ養殖に用いる支柱にサルボウを垂下し、珪藻を効果的に摂餌させることとNの排泄によるノリ色落ちの軽減効果について把握する。

[成果]

- (1) 垂下養殖にあたり図1に示す飼育器（珪藻パックン）を作製し、ノリ養殖場（1小間）に設置した。その結果、サルボウの生残率は90%以上であった。
- (2) ノリ色落ちの軽減効果については、低水温（6℃）によりサルボウのろ水量が極端に低下したこともあり、ほとんど確認できなかった。

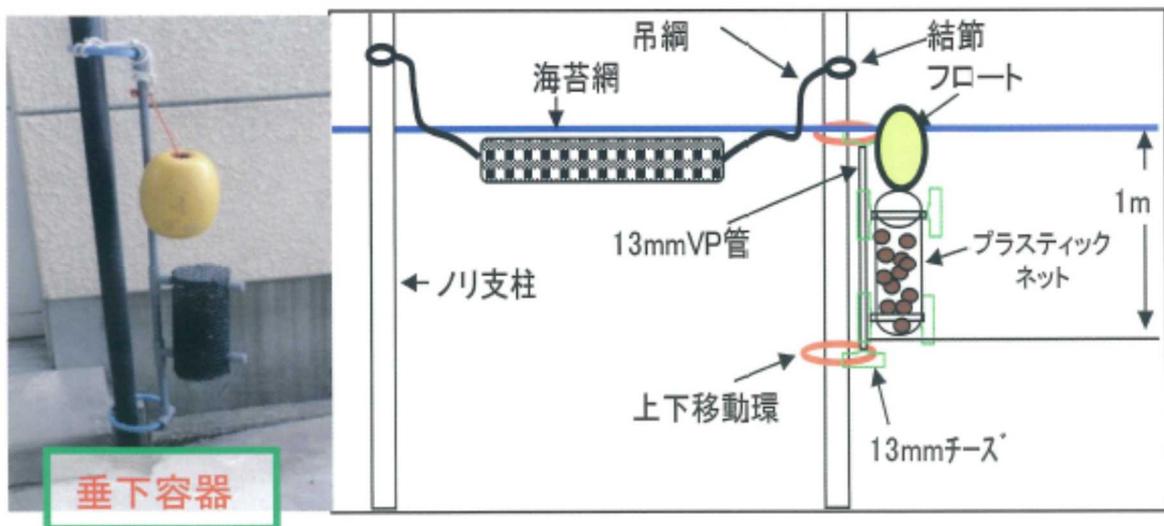


図1 飼育器の写真（左）と飼育器の設置方法

[課題・問題点]

- ・効果発現のためには規模の拡大やろ水量が多い他の貝類での取り組みも必要である。

[今後の対応]

- ・サルボウの代わりに、低水温下でも、ろ水量が低下しないカキを用いることで、色落ちの軽減効果について再検討する。

[その他]

研究期間：平成 22～23 年

研究担当者：普及担当 藤崎 博、藤武 史行